

デジタル・シルクロード東京シンポジウムを開催



一般公開セッションでの講演



学術総合センター1階ロビーでの展示



カーン：ユネスコ事務局長補



白川哲久 文部科学省国際統括官
(日本ユネスコ国内委員会事務総長)



専門セッションでのパネル討議



末松安晴 国立情報学研究所長

国立情報学研究所では、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）及び日本ユネスコ国内委員会との共催により、平成13年12月11日から13日、学術総合センターを会場に「デジタル・シルクロード」東京シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、文化とデジタル情報技術の融合による新たな視点でのシルクロード研究と文化遺産保存をテーマに、風化、破壊、資料埋没等の危機に瀕しているシルクロードの文化遺産の保存と世界的情報資源としての共有・公開を目指して、ユネスコとの協力により開催したものです。

11日は一般公開セッションとして、中根千枝東京大学名誉教授の「シルクロードの人々とその社会的文化的交錯」、樋口隆康京都大学名誉教授の「アフガニスタンの文化遺産」及びアブドゥル・カーン：ユネスコ事務局長補の「デジタル・シルクロード構築のための新たなデジタル技術の探求」などの講演が行われました。

12日からは専門セッションとして、12日午前はシルクロード研究の新たな観点による文化財保存、VR、リモートセンシングなど多様な視点からの発表があり、

午後のポスター・セッションでは22に及ぶポスターを前に熱心な議論が行われました。13日午前は新たな視点からのシルクロード調査研究の計画や将来への提案、午後はパネル討議とシンポジウムの総括が行われました。また、会議と並行して、学術総合センター1階ロビーではシンポジウムに関連したデジタル情報技術の展示が行われました。

シンポジウムには、海外からの参加者約30名と一般の参加者を含めて約330名の参加があり、文化遺産保存と活用・公開におけるデジタル情報技術の可能性について活発な議論がなされました。

ユネスコでは、アフガニスタンなどの危機的な状況にあるシルクロードの文化遺産を最新のデジタル情報技術で記録・保存し、コンピュータ・ネットワークを通じてデータを世界的に共有する試みに着手しようとしており、今回のシンポジウムの成果を今後の国際協力プロジェクトにつなげたいとしています。

(デジタル・シルクロード東京シンポジウム運営委員長
小野欽司 国立情報学研究所研究総主幹 / 教授)